

◆一冊しか現存しない
元代の画伝

金時代末期から元時代初期に掛けて、道教の一派全真教の道士として活躍した丘処機（一一四八―一二二七）（道号「長春」）は、中国北東部を支配する金、北西部を支配するモンゴル帝国、南部を支配する南宋が三つ巴で対立する中、金と南宋の招聘には応じず、モンゴル帝国の皇帝チンギス・ハーンの招きに応じる。七十歳の高齢にも拘わらず十八人の弟子と共に西域に向かい、約二年掛け中央アジアに到着し大歓迎を受ける。面会したチンギス・ハーンは長春の教えに甚く感銘し、長春が亡くなるまで手厚く

保護した。

この西域旅行は、同行した弟子の手により『長春真人西遊記』として記録される。明時代に作られた孫悟空でお馴染みの小説『西遊記』と同名であることから混同され、二十世紀初頭になり、長春が小説西遊記の作者と広く誤認されていた。

本書は長春の生涯を描いた画伝で、弟子の史志経編（ししけいへん）至元十一年（一二七四）に南宋の都・杭州で刊行されたものを、大徳九年（一二三〇）に大都（北京）の道士・路道通（ろどうつう）が刊行費用を募り重刊したもの。五巻本として出版されたが、本館所蔵の巻第一、一冊しか現存

しない。十六葉の挿絵は非常に精巧優美で、元代の版画技術の高さが窺える。

掲出図「謁師寧海」は、長春が寧海にて、全真教の開祖・王重陽とその弟子で大富豪の馬丹陽（ばたんやう）に初めて面会した場面。荘厳な邸宅に瑞雲（ずいうん）が漂い、歴史的会見を祝している。

巻初の目録には、「朝帝雪山」などチンギス・ハーンとの面会を連想させる記述があるが、図は失われ鑑賞出来ないことが悔やまれる。

奈良国立博物館の館長を勤めた中国版画研究の大家・黒田源次氏旧蔵。

（天理図書館 森山恭二）



▶【ちょうしゆんだいそうし
げんぶうけいかいぜつぶん】

1巻1冊
元時代 大徳9(1305)年刊
縦35.0cm 横24.0cm



<天理図書館のお知らせ>

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>
◇平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)
○4月の休館日: 3日・10日・17日・18日・24日・28日
○本書は、今年開催する展覧会「中国古典名品展」にて展示します。
※最新の情報については公式HP、Twitterでご確認ください。